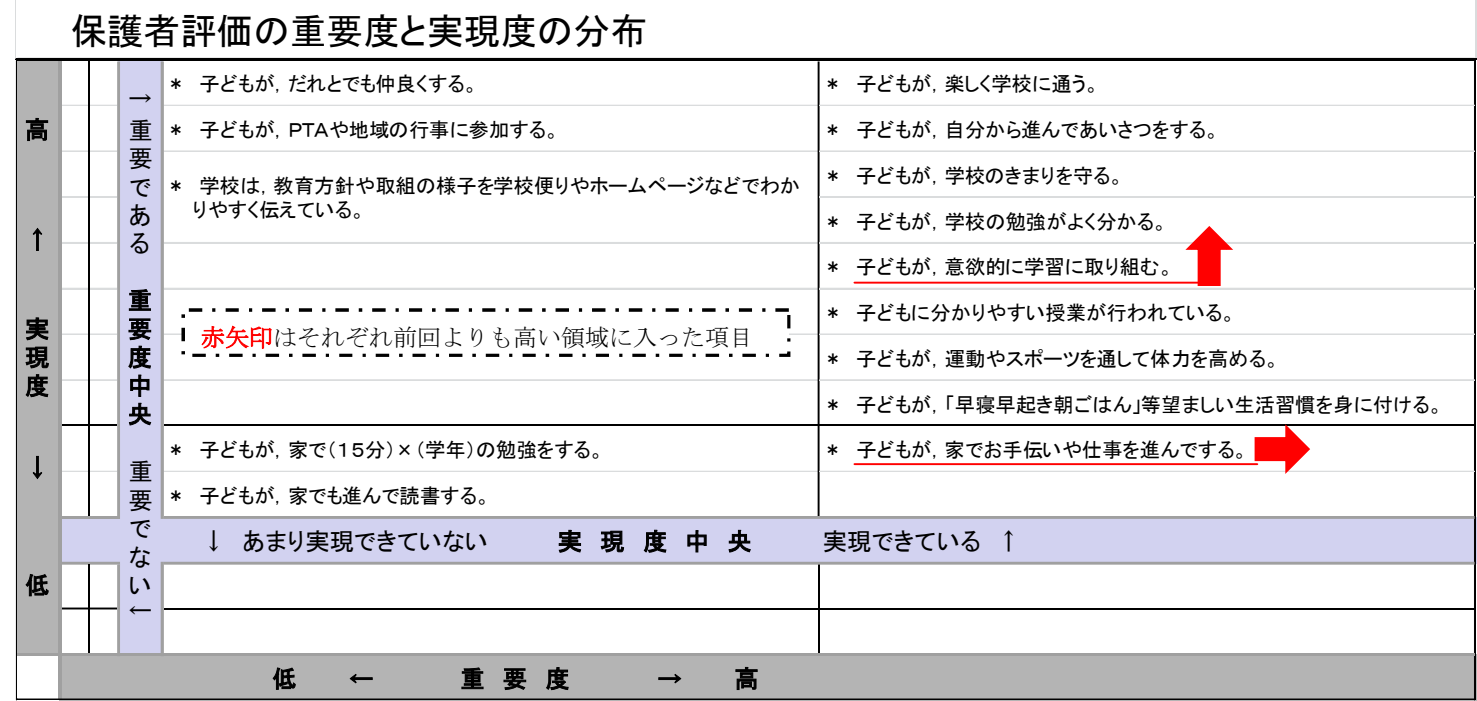


平成29年度前期

学校評価アンケートの結果より

毎日寒い日が続きますが、皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育にご理解ご協力いただきありがとうございます。「後期学校評価アンケート」の結果についてお知らせいたします。ご協力ありがとうございました。



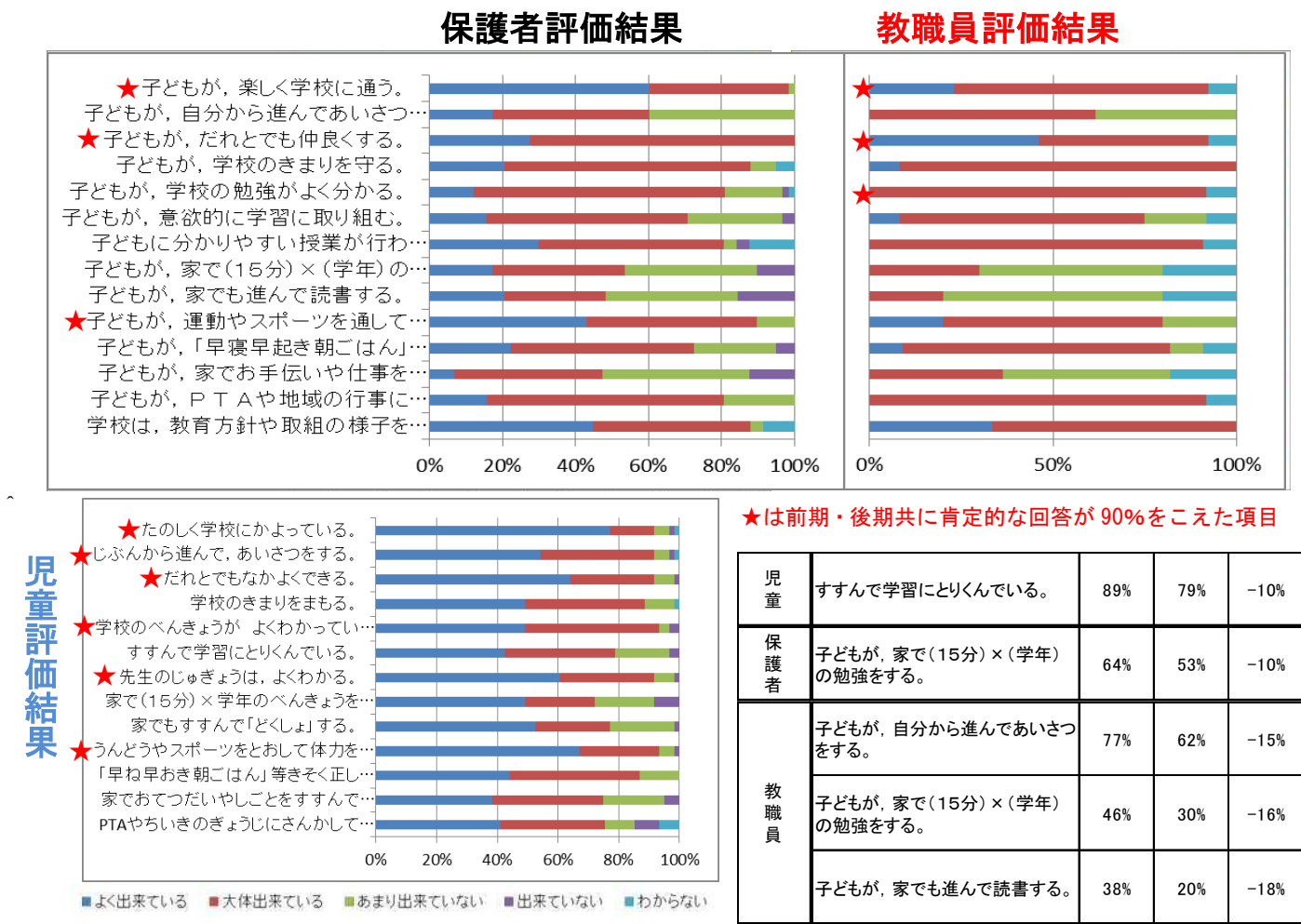
【保護者重要度と実現度の分布結果について】

「重要度」について、今回の調査もすべて中央より右側に集まりました。今回の項目について、重要でないものはないとの結果です。また、それらがどれくらい実現されているかを示すのが「実現度」で、これは図の右側に行くほど実現できているという結果を示します。これら「重要度」と「実現度」とを関連付けて、それぞれの項目がどのような分布になったのかを示すのが上の図です。結果は14項目中12項目が前回と同じ結果となりましたが、「意欲的に学習に取り組む」の重要度と、「家でお手伝いや仕事を進んでする」が一番高い領域に移動しました。この内「意欲的に学習に取り組む」の重要度増加については、前期に行った全国学力テスト等の実態報告を踏まえて学習することの重要性が、保護者により高く認識された結果ではないかと考えています。ただ、学校として重要だと考えている「家で(15分)×(学年)の勉強をする」項目の重要度が高まらなかった点については少し残念な結果となりました。

【学校運営協議会の皆さんから】

- ・ あいさつのこと、子どもたちの様子を見ていると、低学年の子どもたちの方がしっかりとあいさつができてるように思う。高学年でもできる子はできるが、そうでない部分もある。学校や家庭でも更に指導を続けて欲しい。
- ・ 学習のこと、親が見るのと教師が見るのとは違うが、どちらかという親の見る方が合っているのではないか。先生方には子どもたちにしっかりと姿勢で授業に取り組んで欲しい。子どもたちが学習したことをわかったかどうかをしっかりと確かめて、反復学習にも力を入れて欲しい。がんばってください。
- ・ 生活のこと、「悪いことは悪い」ということをしっかりと教えたい。謝れない子が多くなっているのではないか。謝ることのできる（自己反省のできる）子を育てて欲しい。学校だけではなく家庭にもしっかりとお願いしたい。

【平成28年度後期学校評価（実現度）結果】



【項目ごとの実現度の結果について】

今回のアンケート項目は前期と同じ14項目（児童は13項目）でした。保護者、教職員、児童それぞれの結果を上を示しました。全体的な傾向は前期とほぼ同じ結果でした。そこで今回は、前期との比較を基に結果を見たいと思います。

まず、本校のいいところとして、★印の付いた項目が挙げられます。これらは前期・後期共に肯定的な回答が90%を超えたもので、これらの項目は他に誇れるものだと考えています。逆に、前期と比べて後期の評価が10%以上下がった項目を対象別に挙げたもので、児童・保護者がそれぞれ1項目、教職員が3項目ありました。内容は学習のことが4項目、あいさつのことが1項目で、後期は3者とも学習に関してのことが課題であったと考えています。

【学校より】

後期の学校評価については、前期同様全体的には良い結果でした。中でも、子どもたち自身の評価で13項目中6項目が年間を通して90%以上の肯定的な回答となったことはとてもうれしいことです。一方、「学習意欲」に関しては肯定的な回答が子ども、保護者・教職員それぞれ79%、71%、75%という結果でした。2割（児童）～3割（保護者）が学習意欲について課題があると感じているということです。学習意欲は学習内容の理解や家庭学習など授業以外の学習を自主的に行おうとする態度に大きく影響します。学校としては、思わず考えたくなるような授業の展開や、子ども同士が意見を述べ合いながら学習課題を解決していくような課題設定を工夫することで、子どもたちがより意欲的に取り組める授業づくりに取り組みます。また、わかる・できる喜びもまた子どもたちの学習意欲を高めることだと考えます。その意味では、学校では授業の中での「わかりやすさ」をこれまで以上に大切にしていくと共に、「わかったこと」の定着をはかるため、子どもたちが宿題や家庭での学習にしっかりと取り組むよう各家庭でのご協力をお願いしたいと思います。

良いところはより良く、課題は着実に解決していけるよう、この学校評価結果を学校・家庭で共有して、それぞれの具体的な取り組みへと結びつけられればと思います。